

肝リピドーシス（脂肪肝）とは

肝臓に脂肪が過剰に蓄積することで、肝機能障害を起こす疾患です。

猫ちゃんが何らかの理由で食欲不振となり、数日食事を摂らないことがきっかけとなり発症します。

特に肥満傾向の子では発症リスクが高いです。

平均して、2日食べないと発症すると考えられています。

その他、糖尿病や膵炎、慢性腸症などを基礎に持っている子は肝臓に脂肪が蓄積しやすいとされています。積極的に治療を行わないと致死率の高い危険な状態です。

《症状》

- 元気がない
- 嘔吐
- 下痢
- よだれを垂らす
- 黄疸(皮膚や歯茎、白目が黄色くなる、濃い尿をする) →
- 脱水
- 体重減少



《診断》

確定診断には、肝臓を針で刺したり開腹をして肝臓の一部を切り取って病理検査に出す必要があります。しかし弱っている子に大きな負担をかけてしまいますので、多くは確定診断をせず、「肝リピドーシスが疑わしい」と判断されたら治療に進むことがほとんどです。

《治療》

命を救えるかどうかは**発症から7日間が勝負**と言われています。発見・治療が遅れると危ないです！

◆ 基礎疾患の治療

→食欲不振を招いた元々の疾患の治療を行います。

◆ 制吐剤＋栄養補給

積極的に栄養を取ってもらうことが治療となります。吐き気がある状態でごはんをあげても嘔吐してしまい、誤嚥にもつながってしまうため制吐剤を併用しながら行います。

口からごはんを食べてくれない場合、チューブフィーディング(経鼻カテーテル、食道カテーテル、胃瘻チューブから流動食を入れること)を行います。

カテーテルは定期的な交換やケアが必要なため、入院管理もしくはこまめな通院が必要です。また、少し元気が出てくると自分でチューブを噛み切ったり外してしまうことが多いです。チューブ管理が難しい場合は、口の中にごはんを入れて食べさせる「強制給餌」が必要です。

◆ 点滴

点滴に肝臓を保護するお薬やビタミン剤などを入れ、機能回復を補助します。嘔吐や下痢などで喪失した水分を補います。

